

平成 25 年度 第 2 回豊橋市男女共同参画審議会 議事録

日 時	平成 26 年 3 月 12 日 (水) 午後 1 時 30 分～2 時 50 分
場 所	豊橋市役所 西館 4 階 災害対策本部室 (東側)
出席者	別紙のとおり
欠席者	高倉 宣夫
傍聴者	なし

(進行：市民協働推進課長)

1 開会

2 市民協働推進課長あいさつ

(進行：木之下会長に交代)

会 長 本日は半数以上の委員が出席しているので、会議は成立している。今回の議事録の署名については、伊藤委員と杉浦委員にお願いしたい。

3 議題

(1) 平成 26 年度事業概要について

委 員 市民意識調査対象者の無作為抽出について、校区ごとに人口や年齢層が大きく異なっていると思うが、過去の調査では反映されていたのか。

事務局 過去の調査の際に確認したところ、概ね校区の規模や年齢層に応じた割合で対象者が抽出されていた。コンピューターによる無作為抽出ということで、今回も抽出の精度については心配ないと考えている。

委 員 調査アンケートの回収率を向上させるための手法を何か考えているか。

事務局 現在検討中である。ただ、調査実施前に審議会において案を示し、ご意見をいただきたいと考えている。

委 員 質問項目はどうなるか。

事務局 過去の調査との比較を行う項目や、新たに行動計画の指標とした項目等は必ず設定する必要がある。すべてを一新することはできないが、重点的に取り組むべき内容は質問項目に反映させるつもりである。また、質問項目を国・県の調査と対応させることで、豊橋市の状況を比較できるようにする。

委 員 学生向けの出前講座について、デートDVを中心とした講座とあるが、具体的にはどんな内容になっているか。

事務局 基本的にはデートDVの実態がどんなものかを理解してもらう内容となっている。中には交際関係にある相手から束縛されるのは当たり前だと思い込んでいる学生もいるので、専門講師の講話や啓発教材の視聴を通してそのような誤解を解き、若い世代からDV

を未然に防ぐことが重要だと考えている。

(2) DV相談事業について

委員 面接相談の実施はどのような流れを想定しているのか。

事務局 おそらく被害者にとっては電話相談の敷居が低いことから、最も多いのは電話相談から面接相談に移行するケースではないかと思う。これまでの女性相談でも、初めは夫婦間や家族内の問題を主訴としながらも、話を聞いているうちに「これはDVではないか」と判断できる事例が一定数存在したので、その場合は面接相談を勧めることもあると考えている。最初から面接を希望される方もいるとは思いますが、その場合は重篤な状況につながる可能性があり、どの程度の人数になるかは現時点では予測が難しい。

委員 今回は相談窓口の設置だけのようなのだが、将来的には市としてシェルターを設置し、対応することも想定しているのか。

事務局 市としてシェルターを設置することは、現時点では考えていない。今後進めていく中で必要であると判断されれば検討するが、当初は現状のまま、庁内関係課や県などと連携を取りながら対応していく予定である。

委員 被害者の相談が1回では終わらないことも多々あると思うが、継続性についてはどう考えているか。人によっては依存し、繰り返し相談するリピーターになってしまう可能性もある。

事務局 実際にやってみなければわからない部分はあるが、対面して行う面接相談であれば、電話相談にくらべてリピーター化する人は少ないのではと考えている。また、ある程度期間をおいて相談を継続し、経過を見たほうが良い被害者もいると思われるので、そのような人たちはリピーターとは区別して考える必要がある。

委員 電話相談員のケース検討会は行っているのか。相談員の中で情報が共有できれば、リピーターへの対応や相談内容の分析にも役立つと考える。

事務局 現在もケース検討などを行う連絡会や、スーパービジョンという研修会などを定期的に行っているため、今後も続けていく予定である。

委員 DV電話相談は、被害者の家族や男性被害者からの電話も受け付けるのか。

事務局 女性相談とDV相談は別番号の専用ダイヤルとなっており、女性以外からの電話も受け付ける予定である。

委員 「DV」という単語は知っていても、内容について詳しく知らない人はまだまだ多い。もっと掘り下げた具体的な知識を市民に啓発できれば、被害者の家族や友人からの電話も見込めると思う。

事務局 おっしゃるとおり、被害者が相談する相手としては家族や知人が多いというデータもあるので、DVについての理解を深めるため、広報紙に特集記事を掲載するなど啓発活動には力を入れていく。

(3)その他

委員 若い人たちや子どもたちの中では男女平等の考え方が当たり前になりつつあるが、年齢層が高い人たちの間では理解が進んでいないと思う。このような人たちに理解してもらえるような啓発に、より一層力を入れてもらいたい。

委員 高校生・大学生に対して出前講座を行う機会があるのだから、そのつながりをきっかけとして、学生と協働して取り組む新たな啓発事業に取り組んでみるのもいいのではないか。

委員 男女共同参画の情報紙として発行しているのだから、「花づな」をもう少し活用できるといいと思う。若い人たちに見てもらえるような内容を期待したい。

会長 それでは、事務局は委員の皆さんのご意見などを今後の参考にしていただきたい。

閉会

平成26年3月27日

議事録署名者

伊藤 友之 ⑩

杉浦 廣行 ⑩

第2回豊橋市男女共同参画審議会 出席者名簿

No	氏名	選任区分
1	あらき ひとこ 荒木 仁子	豊橋商工会議所女性会元会長
2	いとう ともゆき 伊藤 友之	豊橋農業協同組合経済部部长
3	きのした たかお 木之下 隆夫	愛知大学文学部教授
4	すぎうら ひろゆき 杉浦 廣行	豊橋人権擁護委員
5	すずき まりこ 鈴木 真理子	豊橋女性団体連絡会元副会長
6	とさき ふみこ 戸崎 史子	公募
7	ひわだ えみ 鵜田 恵美	豊橋市小中学校 PTA 連絡協議会元副会長

<事務局>

市民協働推進課 課長 金子 尚央
 主幹 中山 久美子
 課長補佐 小久保 雅司
 主査 伊藤 由美子
 主事 青木 保憲
 事務員 姜 上